

平成 30 年 7 月 6 日 市長定例記者会見 会見録

【市長】

はい。遅くなりました。申し訳ありません。

災害情報を、行政からなるべく迅速に、今までの教訓を活かして、皆さんにお伝えをするつもりでありますので、どうぞよろしく願いをいたします。

全国的に、ずいぶん警戒をしなければいけない、というような状況で、静岡県もその例外ではありません。中山間地域を抱える静岡市ですので、万が一のことがあります。

浜松市は、もう避難勧告が出ているみたいですが、そのあたり十全の情報収集をしていますので、市民の皆さんへの報道をよろしく願いいたします。

そんなこんなで、少し遅くなってしまいましたが、昨日の夜のニュースを見ると、なんていうかな、報道しなければならないことと、報道をしたいこととのバランス、各テレビ局ずいぶん悩んでいるなということを感じました。

まさに、この全国的な大雨の状況は、報道しなければならない、マストの事項であるけども、もう一方で、一般の視聴者の方々からすると、日本代表が帰国をしてきて、そして、どんなことを語るのかということを知りたいのだから、というふうに思って、それぞれ、ずいぶん工夫しながら、夜の報道番組を構成していたな、なんていうふうな印象を持ちました。

私も、そんな中で、いろんなこと感じたんですけども、サッカーの日本代表、いろんなところで私、話題にしていますけれども、昨日の帰国した後の、田嶋会長を交えての会見をご覧になったと思いますが、皆さん、何が、どの言葉が、印象的だったでしょうか。

私は、やっぱりキャプテン長谷部。今年の 99 パーセントの満足感と、1 パーセントの後悔があって、1 パーセントの後悔を、これからのサッカー人生、これからの自分の人生への糧にしてくと、ここにすごく、なるほどなあと、ギリギリまで戦ったというか、頑張った、全力を尽くした者しか言えない言葉なんだろうなと、というふうに印象的で、心を打たれました。

本当に、悔しかったらと思う。まだ 34 歳という若さで、長い人生が待っている中で、静岡県のキャプテンとして、私たちも大変誇りに思いますしね。

この 1 パーセントの後悔ということバネにしてね、これから、是非素晴らしい人生を歩んでいただきたいなあと、私からもエールを送りたいと思いますし、ありがとうございますと感謝を申し上げたい、というふうに思います。

さて、それでは、今日は 2 つの話題であります。

この日本代表の戦いぶりを見て、今、高校生たちは、胸躍ってるし、自分達も頑張んなきゃ

いかんなあ、という気持ちもモチベートされていると思います。

27年ぶり、高校総体が、静岡市で開催。高校生が、地元開催を盛り上げます。インターハイが27年ぶりに、静岡市を含めた東海地域で行われる、という話題であります。

スローガンは、「翔べ、誰よりも高く 東海の空へ」。高校生にとって、最高の舞台、インターハイ。全国の頂点を極める「平成30年度全国高等学校総合体育大会2018 彩る感動、東海総体」が、来月、本市で開催されます。

東海ブロック4県。三重県、愛知県、岐阜県、そして静岡県で開催される今回のインターハイですが、本市では、草薙の「このはなアリーナ」で、体操競技と新体操が行われます。市内の高校からも、多くの選手が出場し、「日本一の高校生」を目指す様子を、私たちも応援したいと、また最高の舞台を提供したいと思っています。

観光交流文化局スポーツ交流課、スポーツ振興課の職員も、このために随分準備をしてきました。

大会期間中は、選手のみならず、地元からも、これを盛り上げていこうということで、静岡市内の高校生が立ち上がってくれています。

まず一つ目、「お茶のおもてなし」。

このはなアリーナでは、高校生が自ら、ご当地コスチュームである茶娘のいで立ちで、冷たいお茶の呈茶サービスを行い、全国の皆さんにおもてなしを行います。

二つ目は、「花のおもてなし」。

選手たちの緊張を和らげようと、高校生が種から長い時間をかけ、大切に育てた草花。

静岡市を象徴するオレンジとか、勝利をイメージしたレッドフラワー「赤い花」で会場を飾りつけます。

さらに、静岡東高校の生徒は、自ら同じ世代の同じ目線で体操競技と、新体操競技に出場する地元選手の情報や意気込みを自分たちで取材をし、ジャーナリスト志望の高校生だと、皆さんを目指して頑張っていこうという高校生だと伺っておりますが、7月の下旬の配布に向けて、新聞を作成しているそうであります。

この新聞を、多くの市民、県民に読んでいただくことによって開催地の士気が高まることを期待しています。インターハイに選手として出場する高校生のみならず、温かなおもてなしの心で、全国からのお客様をお迎えし、地元開催を支え、盛り上げようとする高校生たちに、ぜひスポットライトを浴びせていただきたい、取材をしていただきたいということをお願いいたします。以上です。

二つ目（の話題）は、「日本平動物園に2頭のピューマが仲間入り ～静岡市ふるさと寄附金全国の皆さんの応援で実現～」という話題であります。

今年度の静岡市のふるさと納税の目玉の一つが、クラウドファンディングを使って呼びかけていくという手法でありました。今日は、ふるさと納税のチラシはお渡ししていないので

すね。また、去年のカタログ、パンフレットをご覧になっていただきたいと思いますが、表紙を開けて2ページ3ページ、「今年が目玉ですよ」ということで、例えば天守台の発掘調査にふるさと納税お願いしますとか、色々目玉を書かせてあって、ユニークな静岡市らしいメニューを用意してあるんですけど、その中の一つがこれでありました。

昨年10月より、“猛獣館などに新たな仲間を迎えるために”と銘打って、静岡市ふるさと寄附金に、新たにクラウドファンディングという手法を取り入れ、寄附を募集しておりました。この度、市内外の皆さんの「日本平動物園を応援したい」という想いが寄附という形で実を結び、新たな仲間として、若いピューマをペアで導入することが実現をしました。

なおクラウドファンディングによる導入は、まだ全国的にも珍しく、もちろん静岡市では初めてのことであります。

本当にご協力をいただきました皆様に厚く御礼を申し上げます。ありがとうございました。現在、日本平動物園で飼育している2頭のピューマは、ともに高齢であるため、若いペアの早期の導入を目指してきました。平成29年度中に、市内外の224件・185名の皆さんから、総額4,605,000円の寄附をいただきました。寄附に添えられたコメントを紹介すると、「お子さんと訪れた動物園がとっても気に入った」、「動物を増やすお手伝いをしたい」といったご意見や、「まだ行ったことないけれども日本平動物園に行ってみたい」というご意見、声や、また一人で大口として、100万円を寄附してくださった方もいらっしゃいます。

ぜひ、このピューマ、元気よく飛び回る姿を、直接ご覧をいただきたいと思います。

ピューマ2頭健康状態はすこぶる良好で、明日、7月7日、土曜日から一般公開の予定です。

折しも、明日は七夕です。新たなペアが日本平動物園の織姫、彦星となってめぐり逢い、将来かわいい赤ちゃんの誕生が待ち望まれます。

さらに、このペアは、外国からの新たな血統として導入されますので、全国の動物園における「種の保存」という点においても貢献が期待されます。

シティプロモーションの一環として、先日、議会で総務局長が答弁をしましたが、今まで「サクラエビ」というものに、かなり光を当ててプロモーションの素材にしてきましたが、日本平動物園というのは、すごくポテンシャルのある動物園でありますし、また、来年、開園五十周年を迎えるということで、いろいろ調査をした結果、レッサーパンダ、これもふるさと納税の対象になっているんですけども、レッサーパンダをこれからひとつプロモーションの素材として、シンボルとして力を入れていくという表明を、答弁をいたしました。

このレッサーパンダも、千葉の市立動物園の風太くんがとっても有名になり、あれは日本平動物園から行ったものですので、レッサーパンダの故郷、メッカでもありますので、そんなこともね、総合プロデュースしてレッサーパンダの日本平動物園というものもピューマ同様にね、これから後押しをしていきたいなあというふうに思っております。

あの、局長も答弁の中で、あ、これは質問者の議員がおっしゃったのかな。

打倒シャンシャン、ジャイアントパンダのシャンシャンだというふうに提言されたことが、

とっても印象的でしたけれども、行政側もそんな気持ちでこのことに力を入れていきたいなというふうに思っています。

今後、園内において来園者を対象としてピューマのペアの名前の募集も行い、そのための命名式も開催する予定です。

ピューマにつきましての詳細は、改めてご案内をいたします。以上です。

【司会】

はい、それでは、ただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は、社名とお名前をおっしゃってからお願いいたします。

いかがでしょうか。

よろしいですか、ございませんか。

はい、それでは早速ですが、幹事社質問のほうに移りたいと思います。

幹事社さん、よろしく願いいたします。

【幹事社】

私のほうからですね、2点。

一点は、駿河湾フェリーの関係なんですけど、来年の3月で撤退するという事なんですけれども、それで、今後の市のまちづくり、海洋文化都市の形成とかについて、影響がどのくらい出てくるのかなということと、関連してですね、今日、市を含めて3市3町が県に対して、存続に対して要望書を出しました。

県のほうでも、プロジェクトチームなるものを作って、存続に向けての動きをしているようですが、市として今後、この問題に対してどのように対応していくのか、ということをお聞かせいただきたい。

【市長】

これが一つ目ですか。はい、わかりました。

駿河湾フェリーの問題ですね、これは残念であります。

とりわけ私たちは、来年、開港120周年を迎える清水港をプロデュースしていこう、また、3次総5大構想の中でも、海洋文化拠点づくりということで、あそこの賑わい、ウォーターフロント開発に着手したばかりですので、あと5年、持ちこたえてほしかったなあというのが、正直な気持ちであります。そういう意味では、残念に思っています。

県道223号という、富士山の日に命名をした航路でもありますのでね。また、伊豆市をはじめとした伊豆地域の3市3町も、大変、このことについては憂慮をしておりますので、静岡市も基礎自治体の仲間として、駿河湾の仲間として、県に対して、この存続に向けて何ができるのかという申し入れをしたところでもあります。

副市長に、県の方に行ってもらいましたので、もし補足があれば副市長にも発言をしていただきますが、今後どんな形の支援ができるのかということを見守っていきたいと思います。

【小長谷副市長】

それでは、今、市長からもありましたように、先ほどですね、9時40分から県の方に要望をですね、環駿河湾観光交流活性化協議会ということで、3市3町の立場で、県の方に要望に行ってまいりました。

応対していただいたのは、難波副知事、土屋副知事の両副知事と関係する部長さんでありました。私どもの方からはですね、伊豆市の市長さんからですね、伊豆地域の観光振興の立場でも非常に重要なルートであるために、ぜひ存続についてご検討をお願いしたいという要望をさせていただきました。

私からもですね、特に静岡市につきましては、これから海洋文化都市で活性化、まちの賑わいをつなげていこうということ、そして、伊豆に向けての重要なルートであるために、やはり、これもですね、情報共有化しながら、静岡市も一緒になって考えさせていただきたいと、そのような旨の発言をさせていただきました。

両副知事から、特に難波副知事からですね、支援体制を担当されているということです。

土屋副知事は、利用方策について担当されていると、そのようなことでした。

難波副知事からは、特に今のままでいいとは考えてない、知事からも継続に向けて前向きに検討してもらいたいということで、どのような支援策ができるか、今のルートがいいのか、すべてトータルで今後検討していきたいというお話がありました。

土屋副知事からは、やはり、今の利用がかなり落ち込んでいるという状況を踏まえて伊豆地域の皆さん、また、静岡も含めて、利用策がどういうものがあるのかな、オリパラに向かって活性化しなければならないということで、みんながですね、今一度、利用方策について知恵を出し合っていきましょう、とこのようなお話をいただいたところであります。以上です。

【市長】

はい、どうもありがとうございます。

いずれにしても、私ども政令指定都市として要望する以上、私達も色々な提案をしていきたいなというふうに思っておりますので、また、ぜひ、情報収集を積極的にしていきたいと思っています。以上です。

【幹事社】

具体的には何か考えていますか。

【市長】

今、検討しています。

【幹事社】

検討中？

【市長】

はい。

【司会】

幹事社さん、よろしいでしょうか。

【幹事社】

はい。

【司会】

ありがとうございました。

それでは、各社の皆さんからご質問を受けたいと思いますので、お願いいたします。

いかがでしょうか。

よろしいですか。ございませんか。

ありがとうございます。ご質問が無いようですので、本日の定例記者会見はここまでということで、ありがとうございました。

【市長】

今日、あれですね。県の市長会が（このあと）あるから（会見の開始時間を）15分早めてもらったんですね。申し訳ありません。また、そちらの方も取材をよろしくお願いします。

【司会】

今回は7月20日、金曜日、午前11時からになります。

【静岡放送】

（挙手）

【市長】

どうぞどうぞ。

【静岡放送】

リニアの関係で、ちょっとご質問させていただきたいんですけども、J Rとの基本合意を受けて、関係市町の市長や町長から厳しい声が上がりましたが、それについては、市長はどのように受け止めていらっしゃるのか、考えを教えてください。

【市長】

この前、記者にお答えしたんじゃないかな。
本文で、中下流域の自治体に配慮してほしいということを掲げておりますので、このことについて、私たちもJ R東海に注視しているということは申し上げております。
また、南アルプスエコパークで、上流域の保全ということも、これまで取り組んでまいりましたので、そのことについても、直接、J R東海のほうには申し入れをしているところであります。以上です。

【静岡放送】

8市2町に対して、市長の方から何かご説明の方をしたということはあるですか。

【市長】

各首長に対しては、個々に説明をしております。静岡市の立場を説明しております。

【司会】

よろしいですか。
はい、ありがとうございました。はい、ではよろしいですね。ありがとうございました。
では、もう一度お伝えしますが、次回は7月20日金曜日、午前11時からとなります。よろしく願います。本日はありがとうございました。